家學叢書

淚墨紙
佐野豊總答
西忍灸法
三歸左方

柳村先生書

全

860
41

国立国会図書館　タイトル『家学叢書』 請求記号 860-41

ガラス使用

860-41

# 淚墨紙序

此書者尊道禪師臨末之時口授於一溪叟道三醫師之秘訣也溪退而筆之紙悲喜交會淚滴硯海故自號言淚墨紙道尊字祖範別號支山支山足利人也蓋妙心流下之僧也曾道尊求法入明禪餘學醫術於恒德老人之兒孫其而悉窮玄微其而及末期而附醫学正傳之奥旨自爾帰朝之後治病見百發百中之功時有古河三喜者乃尊之高弟也曾同船入明同学故滾以二子名師學成而采二子之名上字以自號道三是以世呼當流而称冊溪之流派嗟乎此書初家藏而未顯於世故窺古井之奥旨者猶未知有淚墨之名

国立国会図書館　タイトル『家学叢書』　請求記号 860-41
ガラス使用

系恐係脱人篇ナリ

頭疑顛

況於其方乎余往在勢州偶見醫之藏此書請欲見之不許余常以為憾焉已亥春有坂井某者系事来武城時余亦在武城清話之次及於淚墨之事坂井氏云此我家傳之書未敢輕使人看也然而吾子深志此門且有通家之好豈何夫惜哉一日袖来云是書雖文字近俗醫術之妙義盡於此宜祕以為家珍而已余喜而歎之嗚乎我當家者流之士未知其源至今得其書而審其顛末何幸如之哉越述其大旨而蒙之首以壽於其傳云寛文十二壬子秋七月既望把翰洛陽山下

色スヽケ死

## 十種祕訣

面目直視　病人自ラ色カハリ瞳不動直視スルハ不治ノ症ナリ

忽作屍臭　病人俄ニ悪臭ヲ發シテ近キ難キハ死症ト知ルヘキナリ

陰脉錯乱　病人寸口ノ脉忽チアラハレ忽カクルヽハ必死ナリ

脚趺腫起　病人ノ足ノ甲腫レクルフシノ骨ミヽサルハ難治ト知ルヘシ

口唇反張　病人唇ソリ反リ色スケ黒ハ必死ノ症ナリ

爪甲黛黒　病人爪ノ甲スヽジヽハ難治ナリ　手足ノ爪クキマテスヽジヽ黒ハ死症ナリ

俄失屎溺　病人大小便俄ニ度ヲ失ヒモラスハ死症ト知ルヘシ

面黒裏口　病人ノ面色黎黒口スホミ言語不由由ナルハ難治ト知ルヘシ

上竄喘短　病人脚腫目ヲ見出シ口ヲ動カシ聲出ス喘息ナルハ十死一生ト知ルヘシ

国立国会図書館　タイトル『家学叢書』　請求記号 860-41
ガラス使用

肢重如石病人脚腫重キ一石ノ如クヒタスラ左右ニナケウハ死症ナリ
已上十種秘訣秘中之秘

陰脈口訣

古今名醫以陰脈而療於万病決死生醫士多不識得之陰脈正則萬病無不治陰脈不正則衆病難治之陰脈絶者必死之症也六脈雖絶陰脈存則可為再治也左右寸関細数而陰脈絶則一日二日三日而死陰脈年月日時合取口傳夜話傳授之陰脈口訣者固一子相傳之秘訣也

左右寸関尺之三部診之如常但寸脈而已軽手関尺之二部者重手或関尺之二部有絶而寸脈不至是謂陰脈絶也雖六部脈絶陰脈正則可治之是當流之極秘也言上醫言庸醫由之耳

男齢可順之傳

男齢五十以上之老人或気積疾積註分別而可為療治也

疾在右者食積也　厚朴　陳皮　蒼朮　在左者血積也

桃仁　杜仲　馬鞭艸　在中者疾積也　陳皮　半夏

紫蘇子　杜仲恐誤冊

痛所有之押之而不痛熱也押之而快者虚也押之而痛者實也安中丸四五粒交本茶而与之

中毒虫

大便瀉者 莪述 當帰 鳳尾艸 不食者薏苡仁 陳
皮 厚朴 枳殻 正気弱者加人参 胸膈痞塞者菔子
菔茎 黄連 短気喘急者桑白皮 陳皮 菔子

灸治之傳

正気強而脉弱者灸 正気弱脉實者不可灸

四君子湯老人諸痛諸病通治加減

気血痰之治術秘訣

従気發者通気湯主之従血發者補栄湯主之従痰發者和
中湯主之

通気湯治痰肉傷食積諸氣諸汗交冒小便渋黄疸水腫脹



満虚煩脾胃不和咳逆積熱健忘怔忡恍惚心痛頭風眼痛

人参一戔炒白朮二分陳皮一分半茯苓二分甘艸些

右剪法如常 痢病芍薬木香檳榔桔梗各二分赤白痢黄連黄芩各二戔内傷芎茱當帰神曲各一分食積香附子枳殻檳榔宿砂陳皮又胃半夏藿香宿砂檳榔木香各二分黄疸茵蔯二分山梔當帰芎茱各一分小腫木通檳榔児浮猪苓當帰各一分去甘脹満檳榔枳殻厚朴紫蘇各二分虚煩麦门知母黄柏竹茹各一分脾胃不調宿砂薏苡仁神曲各一戔咳嗽半夏良姜丁香柿蒂各二分積熱黄芩黄連茵蔯山梔滑石大黄各一分建忘石菖蒲茯神各二分怔忡真珠二朱茯神犀角石菖各一分恍惚遠志木香山茱石菖茯神各一分心痛半夏木香各二分乳香延胡索各二戔頭风防风藁本牛膝防已各二朱蔓荊一両眼痛枳殻桂心川芎各一分

補栄湯治眩暈痨疾眼目咽喉大便結腰痛脚気瘡腫疥瘡
女血道耳鼻脱肛消渇吐血衄瘀血金瘡癲癇淋疾下血

當歸　芎藭　芍茱　生地黄各二分半　茯苓一分　甘艸些

右煎法如常　眩暈白芷菊花菱神人多各一分痺疾羌活一両防風独活秦艽杜仲各二分諸眼病荊芥桔梗周麻各一両大便結者桃仁枳殻梹榔各一両腰痛秦艽續断独活各二分脚気梹榔牛膝木瓜紫蘇木通各二分瘡腫大黄連翹黄芩黄連栝蔞各一分消渇麥門地骨知母黄芩各一分疥瘡白芷栝蔞大黄黄芩各一分衂阿膠茜根各一分疼血貝母黄芪薄荷阿膠各二分金瘡大人多一朱黄芩三朱炒耳塞黄栢一両炒知母二分鼻不通石菖蒲木香桑白皮各二分脱肛香附子荊芥木通各一分癲癇人多白朮遠志石菖各二分淋疾木通山梔瞿麥石韋各二分下血槐角側栢葉枳殻陳皮各一錢

和中湯治泄浮中暑疼飲咳嗽霍乱肢痛喘息中風傷寒胸痞瘧虫頭痛呕吐疝気

大黄一両　藿香二両　厚朴　白朮各三両　桔梗二両

茯苓一両　半夏　紫蘇各一両　甘艸少

喘息本文作喘息

加味痢二條ニ分ル五十七ヶ條成脱六ヶ遺ノ加味ニ家疑流

右生姜二片入煎方如常　泄浮蒼朮芍茱各二分中暑香需白扁豆各二分疼飲枳殻蒼朮各二分茯神各一分咳嗽乾姜二朱前胡桑白皮各二分霍乱香附扁豆黄連各一分肢痛芍茱二分喘急桑白皮枳殻前胡各一錢中風木香二分枳殻一分傷寒大棗一分傷寒二三日外症ミユル寸是シ与フ甚妙し胸痞青皮枳実各三分瘧疾宿砂艸菓各二分虫痛黄連木香青皮各二分頭痛川弓柴胡各一分呕吐生姜二朱蒼朮二分疝気梹榔莪述三錢各一分

右三ヶ条ノ秘方五十七ヶ条ノ加減當家ノ密事日用治療ノ秘訣也妄ニ他ニ傳ヘカラス

膝疑膽

安虫丸　木香一錢　莪述同　牛膝　黄栢各九錢三分焙

右糊丸

右涙墨紙一軸以衣関順庵本写文政改元十月廿三日

奈須恒徳

従佳和無々總二十ヶ条名書　嘉静老人答話

四時の脈の事有より後鶏毛石ハ四時の脈にて陰陽立夏立秋
立冬不必しも脈路を移るまでなし其人にしたがひて持脈の移なる物
なり仲周に立て其季の脈のたとへかけくらるものも
男の季の脈の事は得ゝ其家ゝ事より其海ゝ事より有る事
東垣ハ男ハ第四にて弁ゝ女ハ人迎にて弁ゝ丹溪ハ左右六部左に
其脈中に神氣有を男の氣とし神氣なしを男の氣なしとし
何と術ハ千書にて書傳し醫師の異成ゆへ其氏類あり
弱ハうちてこれハ云と云り按ハ其中字の讀にて心得
微ハうちてこれハなし其外按て明ならずこれなり　日本

滑ハ陽病なれども下ともなれば陽の動
数ハ浮ニして沈ニなり大小虚実共ニ不可有定ぬ六動ニして
沈極ニして外令無し

伏羊極共ニ形証

傷風脉尺寸共人迎浮大有汗傷寒脉尺寸共人迎緊濇共汗
中風病ハ陽病ニ中脾有中腎有中経有病ニ証も多分ハ一勾一ニ
ニ新久明後便宜見逆

痘と疹と脉無しの以病新逆病大法の兼証再尻痛て全身壮
熱して睡中驚跳して時々喉痛ニして必痘疹と成る也
痢病陽病の急病小実痛法大ニなるを逆ハ陰病の久病純虚を

下し或腹痛有ニて下ニて沈細数伏ハ陰なり、
産後ハ陽病陽病より産後ハ陰病陽病より大なりと滑なるハ去
寒熱を志かとして死なるものハ陽ニ療治の目処ニ数病の時ハ六部の内
死日ハ病大なる事を寒邪の不正と定む遅病の時ニ部の内死分
脉ニ足なる事を寒邪の不正と定む
男女共ニ逆の脉ハ陽命を征として生死ニて故ニ右大を
婦とハ肺主命 脾男命 命門元命 女子ハ陰血を征として生死ニ
故ニ左大を婦とハ心血主 肝経血 腎小原
少年壮病の時ハ盛なる古老人虚ハ病の治ケ悩かれなきなり
某を病者ニ与てきくことハ常ニなるか識ハ得ぬ何ハ熟成

分家持老療治猶と病とお對せる業別お定りてなりおそれを
用てきかせる事とは百人に十人もなしたとへは病大事時業少なれは
屆奴問きかゝる猶猶増病も亦甚しあの業をおく合て与し降は
病小事小業大なれは病の外得男業力におかせる故に病分よきれ
なれとも病人むさと然れ持れをは奥業をいかこうもしくかるく合
なはしく
為病本病の兼治なる事亦暴卒の事病は仲景の外邪の治法にあり
つて業程ある二症にて兼治すくを知除れに調合して名病の盗汗も
不食し常事なに虚しなるは本位の内傷の治法にあつて常事を調
治防を升降せしめ狎男を獨立するれの業を十四人從斗も

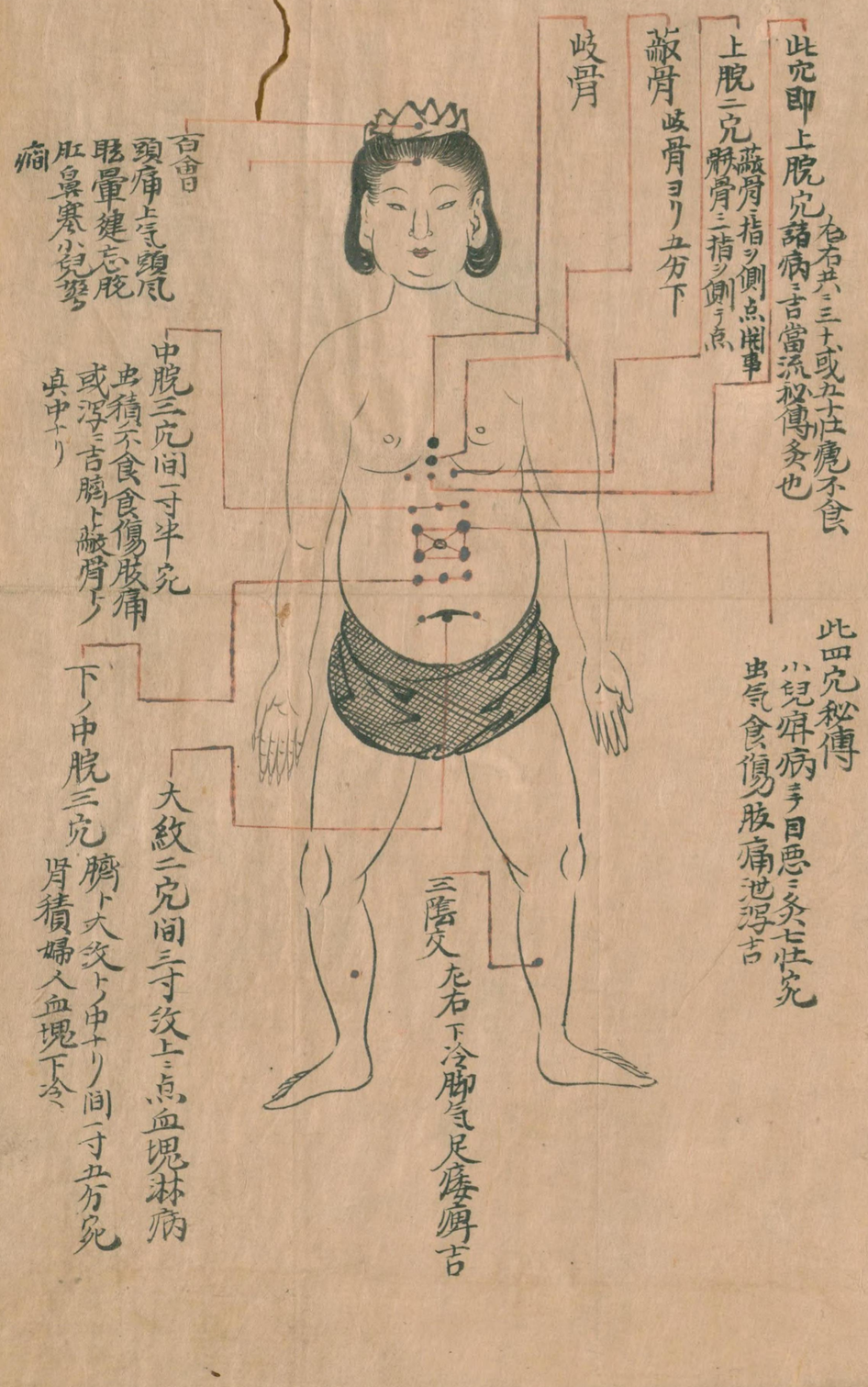
調合して業力の屆もしかれ故に仕て
男女の業なるもなれは男は諸命難教しやすし故に稱命の刑
を當とし女は諸命尊結しやすし故に快命降命教命の刑を
當とす其亦大抵のかゝるしの者なるべし
實熱の二を在に見分めて何病もはつれ事由なる事腎の大病とて
事後に一通の切紙なり病症大過にして猶も又大過なる時うけて見按て
見知分甚所を邪の所立として治邪の業を与し知分かいなき所を此邪の
所としていろはなく病証不足に十猶も亦不足故時うけて見按て見
知分かしなき所をもとこの里の所として獨立の業与し此形猶海通し
力なる所を未耗の所をしていろはなれ

第四痰の中薬の為に第四君子血四物痰に陳湯
第五虚血虚に定て不用薬の為に血虚に当るの類燥剤を不用
久病に定まる加減なるべし此の男命を見すれば之を食るの
減ずるなれば去るべし又小便去ふ如なれば用陰なるべし別に結筋
生薬如なれば去るべし但通しまた如なれば無過ぎれば也去る物も
積塊疝心腹痛此類の病定る不用薬のもの不なれば命実し結ぶ
さかり痛む病に補命の薬分氏の類不用法にて
法病に当る薬後薬なるべし其分中風にてあるべし
中風先去痰　中風通命　後活血生血
痢先通泉 兵 牧 寺　口痛 勺 陸　去瘀 勺 桃 柘　調後重 朴 兵 寺

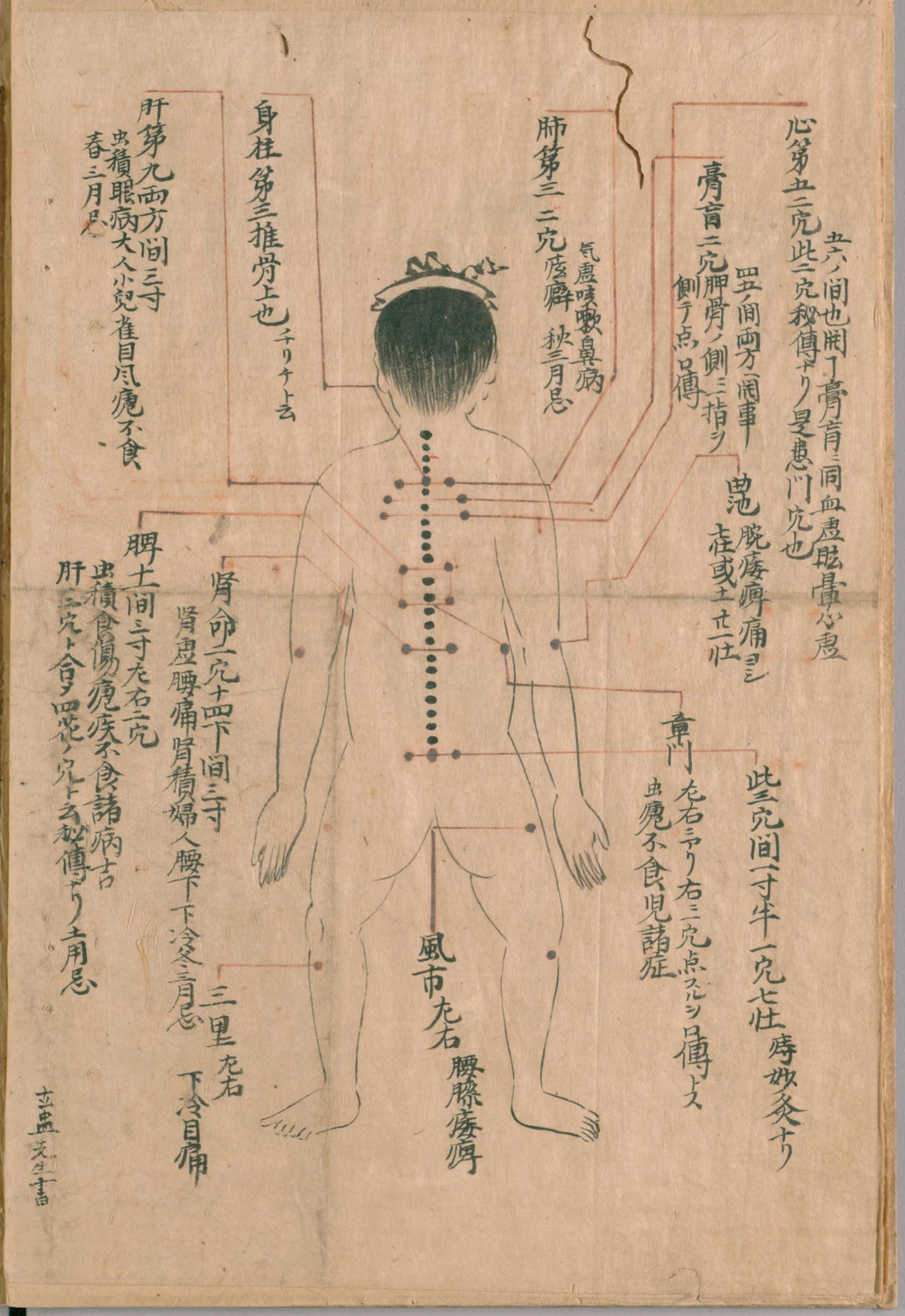
後は炒芍朮運耳 凡如此 一切の病凡世人当後以来あるべし
中風中命の異分に為れば中風には必力痰延中命には必ずし
咳痰血吐血欬血吸血是に肉類の病定て用ふ薬位不用薬位
のみ是を知るべし口為て咳嗽も邪何れは去りたけ虚されば正命を
補血症にも当後何りお大通上されば薛劍の類にて お大を退けば
鰹血なれば血を涼に痢血なれば痢血を去る 紅花 牡丹 鞭 茅根
の類にて通る如ひ如く薬不可定規
温薬十二八九用ると云人何り又治薬十二八九用ると云人何り何れに
よるべく此の論誤に一向かたり求所なるに中損表虚学耗の人
を治するは朮多春桂の類一時に多用し故年中には白朮世行肉桂者

黄氏人ノ二行ヲ用ヒ腎虚ニて虚熱津液虚脱の労熱ヲ治ヲ
極ニて相火を退け地黄ニて腎液をまし地骨皮ニて虚熱を止め
為葉ニて脉命を収斂し梅子ニて脉熱腎燥を除め此の各年中
ニハサイリヒ入ル外の中実脱疾をやめ葉の飾葉の実脇を除きまゐの
痰をかはかして五年ノ飾服を収斂し松実の中焦下焦の実壅を
通変するの抜捷要の薬剤ハむさとハ不用なるに入ラ候ハ
故年才十歳ヲ為程用ハ
以上ニ十ケ条ニ為ニ拙ニ為ニ而しけ二結四症ヲ経ヲ以テ
七十日ニ治ス諸病ヲ図一ヲ以テ以テ為ニ竜ヲ以テ万端ヲ以テ不能書
答ハ来ル年為應報ハ
右田沢常伯相ヲ以テ
陸知吾兵 [illegible]
[illegible]

# 西忍秘傳 灸法簡而易記 蓋掲其圖如左




国立国会図書館 タイトル『家学叢書』 請求記号 860-41
ガラス使用




# 一屠

○三飯丸

生一両 香五両 黒七両 氷餅丸五七粒ツ

一瘧 忍冬七本手一束 葵膏朝

一渋服 飯之湯一泄浮白湯ニテ

一色服 ケシカラセツ蓬ノ根七本手一束ハ疾

一血ムシニ慢湯

○天水散 夏土用ニ取藻之葉や

一熱病 大豆虫 早肩 淋病 便秘 虫積ニ水ニテ用ヘ

藥皮三製方就名考之蓋出于足利廻翁也萍末方亦中古醫人所試用而非唐山傳來某也甫庵筐中得古紙二方予癖好斯邦所創某方見而愛之書此教字以還焉甲甲八月既望玄虫散人誌

国立国会図書館　　タイトル『家学叢書』　請求記号 860-41

ガラス使用